

都市問題講座

第7巻

都市計画

有斐閣 A5版 950円

都市問題に対する

都市計画の集大成

都市問題講座第7巻の「都市計画」は当初全6巻で刊行された同講座に寄せられた批判、要望によって企画、刊行されることになったものである。

同講座は『個々の専門にとらわれず「都市問題」として統一的・総合的に研究が推し進められねばならないのである。市民を無視し都市無計画の姿を呈する日本の都市の現実をふまえ、それを中心として生起している諸問題に、新たな視角から総合的・有機的な接近を試みた。これまで分散的・個別的に行われてきた諸研究を、「都市問題」という角度で集成することに積極的な努力を払って編集され、刊行されたものである。

追加された「都市計画」はその内容上都市問題の解答という性質をもっている。一方都市問題講座の第7巻目という性格をもっている。解答は問題1行に対して10行で述べるのが普通である。この「都市計画」は問題が

6行半で解答が半行という形になってしまった。

複雑でその解決のむづかしい都市問題に対すべく都市計画をこの少ない余白にもれなくするのは至難というべきであろう。又少ない紙面にあまりに多くをつめこめば、多少の混乱はまぬかれない。この「都市計画」はその点がないでもない。

しかしながらこういった大きな制約がありながらこの「都市計画」には、我々が現時点でもっている解答が非常によく整理されて述べられている。

現在我々が直面している都市問題、それに対処する解決策、都市計画の体系、その問題点、諸外国での事例、これらが技術的側面はもちろんであるが、ただたんに技術的側面からだけではなしに社会、法制、行政、市民生活、の側面からも検討、整理されて述べられている。その範囲も都市計画の構想の段階のものから広域計画、都市計画、さらに各種計画にまでおよんでいる。又それらの歴史的位置づけもされている。それらの著述は非常に明快で分りやすい。

現在、我々が獲得した都市計画の体系は、現在の都市問題の深刻さ、大きさ、強さ、複雑さに対してあまりに無力であることはあらそえない。

この「都市計画」が『都市の現

実をふまえ』現在の都市計画の体系を忠実に著述しているためにこの点をはっきりと示していることも事実である。この点をこの書が明らかにしたことは、都市計画も都市問題の中でとらえられるべきであるという、全6巻の講座を全7巻にした都市問題講座の意図にも、『「都市問題」という角度で集成する』という意図にも沿っているといえる。

都市計画の体系をさらに強力にすることは、今後の我々——すべての市民——にかせられた問題というべきであろう。〈T〉

あとがき

これまでの本誌とはちがった異色な特集になりました。また編集に力が入ったせい、ページも多くなってしまいました。横浜文化とは結局なんのでしょうか。校正をしながら、つくづく考えさせられました。しかし、たった一つ確実にいえることは新しい横浜づくりとそれにふさわしい文化は、私たち市民一人ひとりのあり方にかかわっているということでしょう。ひとつこれを契機に、大いに考えこんでみませんか。

本号は、執筆者数でも新記録です。寄稿者の方々に厚くお礼申しあげます。〈N〉

調査季報

11

1966年5月31日

編集・発行 横浜市総務局調査室

横浜市中区港町1-1

印刷 有限会社 宮村印刷所

横浜市南区永楽町2-22